

横浜南部、杉田町から産出した 中里層（中部更新統）の貝化石

松 島 義 章

Molluscan Fossils from the Nakazato Formation (Middle Pleistocene)
in the South Part of Yokohama

Yoshiaki MATUSIMA

少し古いことであるが、1967年6月9日に横浜市南部の杉田町における国電根岸線のトンネル掘削工事にとともに、上総層群中里層（大塚、1937）の砂質泥岩層中より点在するトウキョウホタテガイ *Patinopecten* (*Mizuhopecten*) *tokyoensis* TOKUNAGA、フスマガイ *Clementia papyracea* GRAY などの貝類化石とウニ類化石を採取した。

昨年、神奈川県立博物館では7月～8月にかけて館蔵品特別陳列「化石—失われた世界の生きものたち—」を開催した（松島、1985）。その中のテーマの一つに「神奈川県でみつかった化石」があり、そこに上総層群中里層の貝化石を展示することになった。これまで未整理のまま保管されていたこれらの化石資料が、これを機会に貴重な標本として整理できたのでここに報告する。

貝類とウニ類化石の産出地点は、図1に示すように横浜市磯子区杉田町の国電根岸線長作トンネル内である。化石包含層は暗青灰色からいくぶん黄褐色を帯びて、やや風化の進んだ無層理の砂質泥岩である。そのためか、かなりの貝化石の殻は融けていたが、二枚貝類はいずれも両殻そろい現地性堆積であったことを示す。なお、殻が薄くふくらみのあるフスマガイとウニ類は圧縮され変形しているものが目立つ。

明らかになった貝化石は、二枚貝類が5種、巻貝類が3種とウニ類の2種である。

軟体動物 **Mollusca**

二枚貝類 **Bivalvia**

イガイ科の一種 *Modiolus* sp.

トウキョウホタテガイ *Patinopecten* (*Mizuhopecten*)
tokyoensis TOKUNAGA

フスマガイ *Clementia papyracea* GRAY

ウバガイ *Spisula* (*Pseudocardium*) *sachlinensis*
(SCHRENCK)

ケショウシラトリガイ *Macoma calcarea* (Gmelin)

巻貝類 **Gastropoda**



図1 中里層の貝化石産出地点（★印）

タマキガイ科の一種 *Tectonatica* sp.

ヤツシロガイ *Tonna luteostoma* (KÜSTER)

ハナムシロガイ *Zeuxis caelatus* (A. ADAMS)

棘皮動物 *Echioidea*

ウニ類 *Echinoidea*

サンショウウニ科の一種 *Temnopleurus* sp.

ブンブクモドキ *Brissopsis* aff. *luzonica* (GRAY)

以上これらの貝類とウニ類の中ではトウキョウホタテガイが化石種である。ウバガイとケショウシラトリガイのような寒流系種もみられるが、他種はいずれも南関東沿岸に普通に分布するものであり、相模湾のような海湾ないし、千葉県九十九里浜のような外洋に面した上部浅海帯砂泥底に生息する種で特徴づけられる。

貝化石の産出地点（杉田町国電長作トンネル）は、大塚（1937）による中里（泥）層の標式地、上中里町に接するところに位置する。層位的には三梨・菊地（1982）の中里層下部の上位層準に対比されるものと考えられる。

中里層から産する貝化石については、これまでの研究で *Yoldia naganumana* (YOKOYAMA), *Limopsis tokaiensis* YOKOYAMA, *Limopsis crenata* A. ADAMS, *Periploma* sp. *Venericarella ferruginea* (CLESSIN), *Turritilla nipponica* YOKOYAMA, *Turritella ikebei* KOTAKA などの中部浅海帯から下部浅海帯に生息する種で特徴づけられていた（大塚, 1937; 大山, 1951; 赤嶺ほか, 1956; AOKI, 1960）。しかし、今回明らか

になった中里層下部層準の貝類群は、その生態的特徴から、上述の貝類群より浅い海域、すなわち、上部浅海帯に生息する種で占められていることが判った。このような新しい資料が得られたことは中里層を堆積させた海域の環境が、これまで考えられていたより複雑なものとなっていたことを示すものといえよう。

文 献

- 赤嶺秀雄・岩井四郎・小池 清・成瀬 洋・生越 忠
・大森晶衛・関陽太郎・鈴木好一・渡部景隆
1956 三浦半島の三浦層群について。地球科学, (30), 1—8.
- AOKI, N. 1960 Molluscan fossils from the Nakazato formation in Yokohama. *Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan*, N. S., (39), 301—306.
- 松島義章 1985 館蔵特別陳列「化石—失われた世界の生きものたち—」。神奈川県立博物館だより, 18(1): 8.
- 三梨 昂・菊地隆男 1982 横浜地域の地質。地域地質研究報告（5万分の1図幅）、地質調査所, 1—105p.
- 大塚弥之助 1937 関東地方南部の地質構造〔横浜—藤沢〕。震研叢報, 15(4): 974—1040.
- 大山 桂 1951 小柴層の化石群集について（予報）資源研彙, (24): 55—59.
- （神奈川県立博物館）

写真1 中里層の貝類化石（すべて原寸大）

1: イガイ科の一種 *Modiolus* sp.

2: トウキョウホタテガイ *Patinopecten* (*Mizuhopecten*) *tokyoensis* TOKUNAGA

3, 4: フスマガイ *Spisula* (*Pseudocardium*) *sachliensis* (SCHRENCK)

写真2 1: イガイ科の一種 *Modiolus* sp.

2: トウキョウホタテガイ *Patinopecten* (*Mizuhopecten*) *tokyoensis* TAKUNAGA

3, 4: ケショウシラトリガイ *Macoma calcarea* (GMELIN)

写真3 中里層の貝類化石とウニ類化石（すべて現寸大）

1, 2: ヤツシロガイ *Tonna luteostoma* KÜSTER

3: サンショウウニ科の一種 *Temnopleurus* sp.

4: ブンブクモドキ *Brissopsis* aff. *luzonica* (GRAY)

写真1

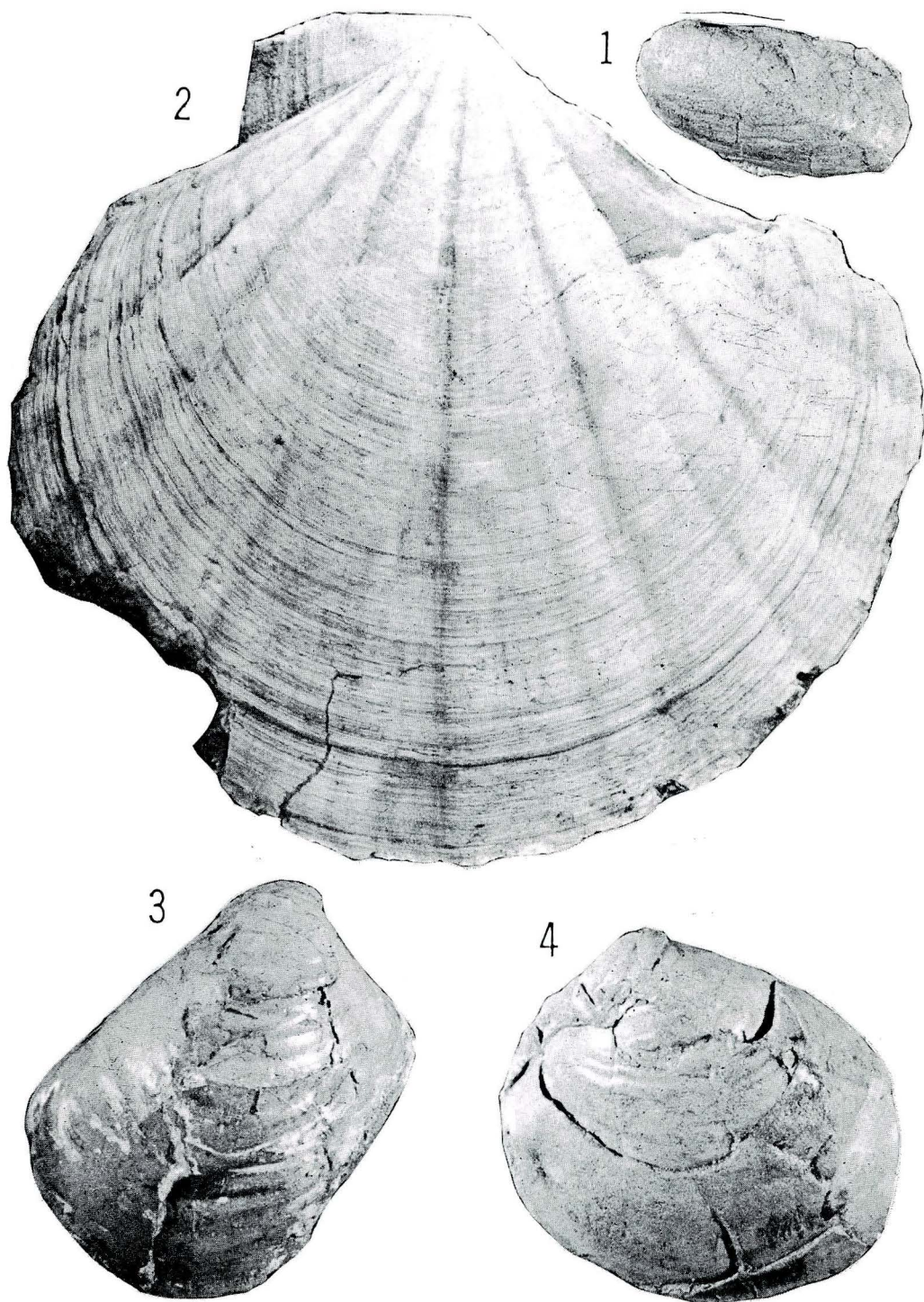


写真 2

